

平成 28・29 年度

広報委員会答申

組織力強化に向けての広報のあり方
—特に医学生、研修医、勤務医、女性医師に向けて—

平成 30 年 3 月

福岡県医師会広報委員会

平成 30 年 3 月

福岡県医師会
会長 松田 峻一 良様

福岡県医師会広報委員会
委員長 塩谷 眞子 ⑩

答 申

広報委員会では、貴職からの諮問「組織力強化に向けての広報のあり方
—特に医学生、研修医、勤務医、女性医師に向けて—」について鋭意検討して
まいりました。

この度、委員会の見解を取りまとめましたので答申いたします。

福岡県医師会広報委員会

委員長	塩	谷	眞	子
委員	権	頭		聖
	林		洋	一
	小	島	浩	樹
	三	ツ	木	健
	宮	崎	純	郎
	仁	位	達	郎
	吉	良	夏	希
	中	村	秀	敏
	佐	藤		薫
	馬	郡	良	英

目 次

I. はじめに	1
II. 医学生の一部	2
1. 組織力強化のための既存の取組みの検証	
2. 組織力強化に向けて新たに取り組むべき施策等	
2-1. 直ちに取り組むべき施策	
2-2. 中長期的に取り組むべき施策	
III. 研修医の一部	4
1. 組織力強化のための既存の取組みの検証	
2. 組織力強化に向けて新たに取り組むべき施策等	
IV. 勤務医の一部	5
1. 組織力強化のための既存の取組みの検証	
2. 組織力強化に向けて新たに取り組むべき施策等	
2-1. 直ちに取り組むべき施策	
2-2. 中長期的に取り組むべき施策	
V. 女性医師の一部	7
1. 組織力強化のための既存の取組みの検証	
2. 組織力強化に向けて新たに取り組むべき施策等	
2-1. 直ちに取り組むべき施策	
2-2. 中長期的に取り組むべき施策	
VI. おわりに	10

I. はじめに

高度情報化社会といわれる現在において、広報のはたす役割はますます重要性を増しているといえる。また、従来の紙媒体を主とした方法のみでなく、SNSに対応した新たな、多様な情報伝達手段、方法もとりいれるべきであろう。特に、今回の諮問にとりあげられた、これまでの方法では十分に情報がとどかなかった医学生、研修医、勤務医、女性医師に向けては新たなアプローチの方法を考える必要があると思われる。

そこで、4部門にわけて、既存の取り組みの検証と、組織力強化にむけて効果の期待できる施策について検討を重ねた。また、新たな試みの一つとして、医学生2名に委員に就任してもらい、若い世代に向けてどのような広報活動が有効であるか、情報の受け取り側としての観点からも、取り組みの提案をもらった。

医師が、その経歴の各所において医師会活動を傍観するのではなく、自身の有意義な医師としての役割の一部として認識してもらえるようにするため、情報のあり方、情報発信の方法、新たな広報の手段を考えた。この答申が組織力強化のための「小さな一歩」となれば幸いである。

II. 医学生の部

1. 組織力強化のための既存の取組みの検証

医学生は医師会と具体的な関わりの頻度も少なく医師会に入会できないこともあり、将来に関係するのであろう組織として存在を認知している程度である。

また、日本医師会より医学生向け情報誌『ドクターゼ』が既に 24 号発刊(2018 年 1 月現在)されているが、その配布方法も含め医学生に情報が届いてなく活用されていないのが現状である。

2. 組織力強化に向けて新たに取組むべき施策等

2-1. 直ちに取組むべき施策

医学生は医師会に入会することが出来ないことから「自分ごと」として直接関わることがないため、医学生が医師会をより知り、より興味を持つ施策が必要である。そのためには、医学生が興味をもつ「①情報コンテンツの提供」、並びにその情報コンテンツがスムーズに伝達される「②情報ネットワークの構築」が不可欠である。具体的には次のことを直ちに取組む。

①情報コンテンツの提供

既に日本医師会より発行されている「ドクターゼ」を見てもらうことを目的に大学内の目につく場所への設置、大学事務局もしくは学生ネットワークからの個人向け配布などより確実に手元へ届くよう協力を呼びかけ、「ドクターゼ」に掲載されている情報コンテンツを最大限に活用する。日医 Lib の活用も図る。

また、医師会主催でランチョンセミナー(先輩医師と話そう)等の開催を増やし、医師会との接点強化を図る。さらには医学生の年次ごとに一番興味をもつ情報や課題をヒアリングし、それに沿う形で医師会より有益・有用な情報や課題解決策を提供する。

②情報ネットワークの構築

医師会の存在を常に意識してもらうという目的で学校の PC のデスクトップに福岡県医師会ホームページを目立つ位置に置いてもらう。

また各大学で開催されている学園祭に医師会ブースの出展・セミナー開催を図り、医学生にアピールする。

そして、直ちに取組むべき最大の課題は SNS の活用である。ツイッター・

フェイスブック・インスタグラムなどの現在の若者(医学生)がもつ必須の情報伝達・共有・共感ツールを活用し情報ネットワークを構築する。具体的には各大学に情報を流通させるインフルエンサー的な役割をもつ数人程度の人物に情報ネットワークの核をお願いし、その核を中心に情報ネットワークの拡大を図ることである。

2-2. 中長期的に取り組むべき施策

医学生が直接医師会と接触する機会を増やし医学生のもつ意見や発想を医師会内に取り入れ反映させるような施策を実施する。具体的には医学生サポーター制度(メディアペチャのような)、医師会活動(理事会)を見学・経験できるような機会を設ける。広報委員会の委員へ各大学より1名は就任してもらい、学生向けの広報活動を担ってもらう。また、医師会主導で医学生だけの広報委員会も考えられる。

さらに、医師会と医学生の関わりを強化する施策として文化体育事業への協賛・支援も有効だと思われる。具体的には福岡4医科大学の医学生対象に「ドクターゼ」の感想文コンクールや誌面企画コンクールの実施、また4大学対抗の「福岡医科学学生総合体育大会(通称:福医体)」の創設支援など。今般の仁位委員は福岡大学医学部サッカー部に所属しているため、将来の福医体構想を見据えた4医科大サッカー大会からも始めることも可能。

Ⅲ. 研修医の部

1. 組織力強化のための既存の取り組みの検証

研修医（C会員）の会費減免（無料化）の効果や大学における初期研修オリエンテーションに医師会役員を派遣し、医師国保・専門医取得・医事紛争の実情などを説明し、研修医（C会員）加入者が増加している。

現在も研修医に対して各医師会においては研修会や歓迎会が催されて一定の効果が得られているが、受け身の参加型が多く医師会員として役割を持つことも必要かもしれない。

また、現在の研修医へ向けた情報発信はまだ不十分である。

2. 組織力強化のための新たに取り組むべき施策等

研修医の会費減免は今後も継続されるべきであり、未だに加入していない研修医については各病院管理者へ加入促進の協力を依頼する。

また、新専門医制度の中の共通講習や研修カリキュラムを医師会主催でできるものがあれば研修医との接触の機会にもなるため、積極的に活用すべきである。

また、理事会見学や女性医師部会、勤務医部会というような「研修医部会」を結成し、会の運営や委員長職・理事職を体験する他、医師会内の委員会や専門医部会にも研修医が参加できるよう考慮し、実際の医師会活動を体験・実践することが有効であると考えます。

さらには、日々の医師会活動にて対面での交流も重要であるため、症例報告などの参加型交流会を頻繁に医師会主催で開催したり、研修期間中に全員に「福岡県医報」への投稿を依頼するなどの工夫を行い、臨床医生活と医師会活動が両立するのが必然と感じられるような医師会会員マインドを育ててB会員への継続を図るべきである。

研修医への情報発信については「ドクターゼ」の内容が充実していることで、学生向けと限定せず研修医にも配布すしたり、スマートフォンを使ってSNSを利用しグループ作りを図るのも考慮すべきである。

IV. 勤務医の部

1. 組織力強化のための既存の取り組みの検証

勤務医は部長クラス以上を除き、頻繁に医師会に接する環境になく、開業医に比べ医師会への関心が低い傾向にあると思われる。まだ会員ではない勤務医はもちろん、既に会員である勤務医にも継続そして密接な関係を築いてもらうため、医師会への強い興味を持ってもらうことが必要である。

現在、情報発信のツールとしてコンテンツが整備されたホームページや Facebook があり、また刊行物の「勤務医のつどい」などもある。

しかし、ホームページの勤務医向けページが見つからないため、勤務医専用バナーを設けるなど単独のものにして見やすくする改善が必要である。

また、「勤務医のつどい」に関して、内容はとても良いが、ホームページ内の「勤務医のつどい」は目立たないため、図、表やイラストを用いて目を引くようなものに改善を要する。

勤務医はなかなか集まりづらく、勤務医研修会、交流会が年に一回あるが、研修会に関しては内容が堅苦しく、部長クラス以上の医師しか来ていない。そこで、集まりやすいようにブロック別に開催したり、その時期のトピックス（現在であれば、当直制度、救急体制、専門医制度など）を主題とした地域の意見交換会のようなものに変えたりすることが必要である。

2. 組織力強化のための新たに取組むべき施策等

2-1. 直ちに取組むべき施策

平成 31 年の福岡県医師会会費改定、また最近のトピックスである地域医療構想などの情報を共有できるようにし、医師会会員である事のメリットを感じる情報の積極的な発信を必要とする。

しかし、医師会から個別に発信するのは困難であるため、病院長、部長クラスの先生または病院事務局を通じて医局会などの機会に直接情報を届けてもらえるような病院全体の協力を要する。例えば医局会で会費改定等の医師会の情報や交流会などの医師会の活動を話題にして頂いたり、現在「勤務医のつどい」を病院単位で配布しているところであるが、それを会員でない医師にも個別に配布して頂いたりするという事である。そのため医師会から各病院への更なる働きかけが必要である。

2-2. 中長期的に取り組むべき施策

勤務医の入会に関しては病院単位での積極的なアプローチが必要であると考えられる。例えば入職時のオリエンテーションの際に医師会についてのパンフレットを手渡しするなど、情報を提供する機会を病院での集会時に組み込んでもらうような事が必要であると考えられる。情報内容については、医賠責保険、法律や医療事故などの興味を持ってもらえる情報で、さらに入会のメリットを感じてもらえるものが良いと思われる。

V. 女性医師の部

1. 組織力強化のための既存の取り組みの検証

2017年の福岡県医師会の女性医師会員数は以下のとおりである。

	会員数	女性会員数
A会員（開業医）	3,897人	285人（7.3%）
B①会員（勤務医）	3,775人	742人（19.6%）
B②会員（大学・県庁など）	690人	168人（24.3%）
C会員（研修医）	431人	142人（32.9%）
合計	8,793人	1,337人（15.2%）

福岡県全体の女性医師数 2,862 人（ただし 2014 年の統計）の約 46.7%にあたる。

これまで、女性医師会員に対する広報活動としては、以下の3つのとおり。

①県医報において、「女性医師のページ」（平成 29 年度からは 3 ヶ月に 1 度担当し、年 4 回掲載）、県下 4 大学で開催している医学生との交流会「先輩医師と話そう!!」の報告、「地域における女性医師支援懇談会」（2020.30 実現を目指す地区懇談会から改称）の報告、日医主催の男女共同参画関連の行事報告など行っている。

②「地域における女性医師支援懇談会」へは担当理事を派遣しての直接広報

③男女共同参画委員会研修会の際など研修会での資料配布

また、非会員に対しても県下 4 大学で開催している医学生との交流会「先輩医師と話そう!!」、「地域における女性医師支援懇談会」、男女共同参画委員会研修会など利用して、担当理事からの直接の広報や、「女性医師サポートブック Pas a pas（パザパ）」の配布、「女性医師相談窓口」、「保育相談窓口（保育コンシェルジュ）」の利用を促す資料を配布している。すなわち、定期的な刊行物や紙媒体の資料配布、各種会合への担当理事の派遣などである。

小規模な地域の女性医師の会合である「地域における女性医師支援懇談会」の開催は、徐々に拡大し、とくに福岡市では東区、博多区、中央区、南区、城南区、早良区、西区の 7 区すべてで開催され、その中心メンバーを核に平成 30 年には福岡市医師会で女性医師の会が発足する予定である。宗像医師会、北九州市医師会につづき県下で 3 つ目の女性医師の会となり、今後の発展が期待される。今後はこれまで開催実績のない筑後ブロックなどでの開催を促したい。

一方、女性医師支援の主な対象である若手の非会員女性勤務医への広報はは

なはだ困難である。研修会への若手女性医師の参加は少なく、「女性医師相談窓口」や「保育相談窓口」の利用者数も少ない。医師会の委託事業ということで非会員の女性医師には電話相談そのものの敷居が高く感じられることも原因の一つと考えられ、種々の情報がそれを必要とする女性医師には届いていない現状がある。平成28年には「保育相談窓口保育コンシェルジュ」について、県下4大学に対して同窓会誌やメール配信を通じての広報を依頼したが、利用者数の増加は認められなかった。

今後は以下の2に述べるようにSNSを利用した広報にも心がける必要があると思われる。また、開業や勤務医などの立場の差や家庭の状況などにより医師会に期待する点は異なると思われるので、情報やサービスのニーズの把握に努めることも重要と考えられる。一方で何らかサービスを提供するのみでなく、女性医師と社会的貢献など各地域女性医師の会の自主的な活動の方向性にそった援助をする必要があると思われる。

2. 組織力強化のための新たに取り組むべき施策等

2-1. 直ちに取り組むべき施策

①20代、30代の女性医師にはSNSを通じた広報が有用と思われる。そのためにはまずホームページの充実が望まれる。

また、種々の情報を県医師会から直接配信するのではなく大学や病院単位での代表者、郡市区医師会の女性理事、「地域における女性医師支援懇談会」の代表世話人、さらに大学のクラブ単位での代表者などのキイパーソンに情報を提供し、そこから情報を拡散してもらう。

内容についても工夫が必要であり、ニーズを把握しよりきめ細かな情報発信を行う。研修会案内や報告、日医女性医師支援センターの情報や平成29年に日本医師会が施行した女性医師への大規模アンケートの結果、病児保育の一覧、男女共同参画局のホームページへのリンク、診療報酬改定や新専門医制度についてなどが考えられる。また、新規開業を目指す場合のロードマップなども需要が大きいのではないと思われる。

②魅力のある医師会活動を行う。たとえば、会員、非会員を問わず子育て中の女性医師の小規模な会合を開催する。子育て中の女性医師が子供連れで集まり、情報交換を行う場所を提供する。医療関係者の離職防止策の一つとして、病院単位や地域単位で育児中の女性・男性に集まる場所を提供する。その際も地域で中心となっていただけ女性医師の発掘が必要と思われる。

さらに、女性医師バンクを充実させて、これまでのように常勤医を増やすと

の観点のみでなく、復職にむけてのスポットの就労が可能なようにする。在宅診療をおこなっている医院では、何らかの形で休職中の女性医師が活躍できる場があると思われる。

③専門医会を経由した広報活動のアプローチをおこなう。

2-2. 中長期的に取り組むべき施策

①研修医や医学生に向けた取り組みを進める。具体的には、まずメーリングリストの構築を行う。特に研修医期間中の女性医師にメールアドレスを登録していただき直接情報を提供する。

また、4大学の連携構築の援助をおこなう。福岡県には4つの医学部が存在する。現在、それぞれで医学生の交流会を開催しているが、今後、学生のころから4大学で交流できる会を開催し、その際に医師会やJDN(Junior Doctor Network)の紹介を行い、医師会に興味を抱いてもらう。

②勤務医へのアプローチをおこなう。これまで、直接関与できていない病院の勤務医に対しての対応が必要である。「Pas a pas」の調査結果に基づき、女性医師の多い病院に出向いて、勤務環境での問題点や悩みなどの聞き取りを行う。

VI. おわりに

2年間にわたり検討を重ねた結果、4部門においてさまざまな課題を見つけることができた。全体をとおしてホームページの改良、特にスマートフォンへの対応など、時代に合わせた最新の SNS ツールの利用が求められていると感じられる。同時に IT 化ばかりにとられるのではなく、インターネット環境が無い方への配慮も忘れてはならない。

また、face to face の交流のもつ重要性も変わらず、そこからうまれる人と人のネットワークを拡大していき、参加型の医師会として捉えていただくことで会員であることの意義・メリットを自ずから感じてもらい会員継続を狙うことも必要である。

さらに、組織力強化に向けた対内広報活動を進めるにあたっては、県医師会だけでなく、郡市区医師会の協力も必要であると感じる。今後もあらゆる方面から「見える医師会」としてアピールすることにより、会員数を増やし組織力強化につながることを願う。

最後に、各委員よりの多彩な意見に助けられ、医師会を会員へ発信するための方策をまとめることができた。今般の答申書作成にあたり、ご協力・ご支援いただいた委員各位に大変感謝申し上げます。